

生物工学若手研究者の集い 夏のセミナー2017顛末記

(生物工学若手研究者の集い 夏のセミナー2017 実行委員長) 田島 誉久

本年度の生物工学若手研究者の集い(若手会)夏のセミナー2017は7月22日~7月23日に、広島県福山市・ツネイシシマなみビレッジにて開催されました。今回も参加者の皆さんの交流ができるよう、第一線で活躍する先生による特別講演、ポスター発表、交流会を三本柱として企画しました。実行委員会にて検討した結果、特別講演では生物工学に関わるさまざまな分野から産学官にてご活躍の7名の先生に講師をお願いしました。恒例のポスターセッションはこれまでのポスター発表に加えて、参加者全員が発表の内容を概観できるようにスライド1枚を1分で発表するショートプレゼンテーションを新たに企画しました。また、夕食(バーベキュー)時の席は、名札裏に無作為に入れた番号カードで割り振られ、新たな出会いとなるような仕掛けも行いました。今回は首都圏から離れた地方での開催となりましたが、最寄りの福山駅は新幹線のぞみの停車であることから関東、関西、九州からのアクセスがよく、広島空港からも近いこともあり、北海道から九州まで全国各地よりご参加いただきました。当初の定員100名を上回る計111名(一般60名、学生51名)のご参加を頂き、ポスター発表件数は54件となりました。ありがとうございました。

初日は、送迎バスにて福山駅からセミナー会場に移動してセミナーがスタートしました。まず、特別講演を3名の先生方に行ってくださいました。星野保先生(産業総合技術研究所)には『世界の果てでできのこ狩り:買えない菌は探すしかない』、渡辺大輔先生(奈良先端科学技術大学院大学)には『清酒酵母をサイエンスしてみた』、山崎梨沙先生(広島県立総合技術研究所)には『広島県産酒の高品質化・新規需要開拓に関する技術開発』と題してご講演を頂き、活発なディスカッションが繰り広げられました。研究成果に加え、その過程についての苦労話、これまでの研究者人生について教訓を含めて講演いただき、大変貴重なお話を伺うことができました。

ポスター発表の前にショートプレゼンテーションを行いました。発表者より送られたスライドを一人1分間の制限時間で発表する新たな企画でした。発表者はあらかじめ1分間に自分の研究やその成果の魅力を凝縮させる必要があります。意外と準備が大変な発表です。実行委員会としては短時間の連続した発表がトラブルなく進行できるかが心配でした。発表途中で制限時間1分のベルが鳴

り打ち切られてしまい、会場が盛り上がる場面もありましたが、皆さんが制限時間を守って滞りなくわかりやすい発表を伺うことができました。ポスター発表ではショートプレゼンのPR効果も手伝って、熱い議論が発表時間いっぱいまで随所で行われました。

次はまだ暑さが残る野外でバーベキューです。偶然同じテーブルになった参加者同士でコンロの熱い火にも負けずに汗をかきながら話が盛り上がっていました。また、その後の交流会では、特別講演の山崎先生が新たに開発されたもみじまんじゅうに合う日本酒を実際にもみじまんじゅうと合わせるミニ試飲会や実行委員会企画の広島ならではの『きき〇〇』(〇〇:広島地酒、もみじまんじゅう、お好みソース)を行いました。地元広島人でも悩む難問や誰も(?)がわかってしまう軟問がありましたが、テーブルごとに解答を競い、交流のきっかけをつくることができました。その後も招待講演者の先生方も含め、多くの方が夜遅く(朝4時過ぎ)まで活発な交流と熱い議論をされ、若手会ならではの光景を今年も見ることができました。

2日目は、特別講演を4名の先生方に行ってくださいました。大竹和正先生(理化学研究所)には『大腸菌を用いた非天然型アミノ酸導入~コドン再定義が拓く新たな可能性』、釘宮理恵先生(株式会社ちとせ研究所)には『生物と事業をはぐくむ』、佐藤俊輔先生(株式会社カネカ)には『発酵と高分子の融合。生分解ポリマー実用化への挑戦』、野口琢史先生(株式会社東洋高圧)には『超高压技術の活用と可能性』についてご講演をいただきました。大学とは異なる環境で研究されている先生方の新しい視点や考え方に感銘を受け、刺激を受けることができました。

続いて生物工学会本大会で行われるイブニングセッションのお知らせ、そして中島一紀先生(北海道大学)から来年の夏のセミナーについてアナウンスをしていただきました。そして優秀ポスター賞の表彰式を行いました。中小路董さん(首都大学東京)・鹿島大揮さん(東京大学)・吉岡純矢さん(東京大学)・藤原由梨さん(九州大学)・手島愛子さん(広島大学)・相馬悠希さん(九州大学)の計6名が選ばれました。受賞された皆様、誠にありがとうございます。

最後に、若手会会長原田和生先生と実行委員長田島よ

り締め括りの挨拶とお礼を述べ、参加者全員で集合写真を撮影して無事にセミナーが終了しました。

末筆となりますが、本セミナーをご支援いただきました日本生物工学会（本部および西日本支部）、福山コンベンション協会、広島醗酵会、ご協賛・ご寄附を頂きました多数の企業様に深く御礼申し上げます。また、ご多忙の中、講演をお引き受けくださいました講師の先生方、会場のお世話をしてくださいましたツネイシしまなみビレッジの皆様、本セミナー開催の機会をくださり、サポートくださいました若手会役員の先生方に心より感謝申し上げます。そして、全国より広島県福山市にお集まりいただきました参加者の皆様、誠にありがとうございます。

た。本セミナーをきっかけに、皆様の交流の輪がさらに広がり、来年も夏のセミナーにてお会いできることを祈念しております。

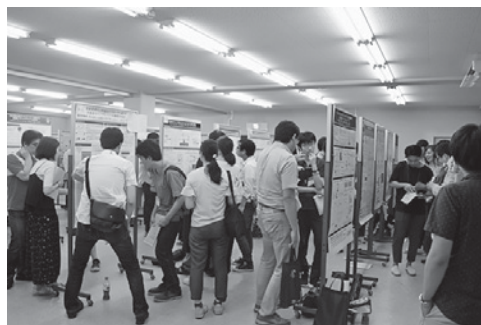
夏のセミナーの様子は、若手会ホームページ < <http://www.sbj.or.jp/division/young/> > でも公開しておりますので、是非ご覧ください。

<実行委員>

荒川賢治（広島大学）、池田丈（広島大学）、川崎健（広島大学）、久米一規（広島大学）、五島徹也（酒類総合研究所）、田島誉久（広島大学・実行委員長）、廣田隆一（広島大学）、藤村孝志（広島大学）、舟橋久景（広島大学）、水沼正樹（広島大学）、本村圭（広島大学）、渡邊研志（広島大学）



講演会



ポスター発表



交流会



優秀ポスター賞受賞者



集合写真